



NEWS LETTER

令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における救急・災害医療提供体制に関する研究」

Vol.2.

Nov. 21st/2019

令和元年度第2回班会議、議事録

1. 日時：令和元年11月21日（木）
14時00分～15時30分

2. 会場：日本救急医学会事務所

3. 出席者：

川前金幸、小井土雄一、須崎紳一郎、齋藤大蔵、溝端康光（坂本先生代理）、横田裕行、野口航（オブザーバー：厚労省医政局地域医療計画課）、西田翼（オブザーバー：厚労省医政局地域医療計画課）、廣瀬美知子（事務局担当）、（順不同、全て敬称略）

～議論した内容～

・主任研究者から今後の予定と目標の説明

資料の確認後、厚労省の西田先生、野口先生にご挨拶を頂き、本研究班に対する大きな期待を述べられた。主任研究者の横田からは今年度は、過年度の成果物のポイントを1～数ページ程度にまとめたリーフレットを各分担研究班に作成いただき、それを冊子体として製本して、各会場やラストマイルの医務室、救護室で使用することを目標としている旨の説明があった。作成した冊子体は、オリンピック組織委員会、会場のある地方自治体や医師会、例えば東京都、東京都医師会等々に配布する予定とし、それらの組織から各々の診療所、救護所に配布していただくことを想定しているとの説明があった。

分担研究班からの報告。

1. 小井土先生（小井土班：日本災害医学会）

ラストマイルの救護所、診療所等で、オ

リパラ版診療記録、J-SPEEDが使用できるように、関係者に働きかけている。また、「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会等に向けた化学テロ等重大事案への準備・対応に関する研究」（研究代表者 小井土雄一）と連携して、化学テロの症状と治療に関する検討を行い、ポスターを作成している。

2. 齋藤先生（齋藤班：日本熱傷学会）

前年度はDMAT訓練の中で熱傷の多数傷病者の広域搬送の訓練をした。また、広域搬送を視野に入れた全国の広範囲熱傷治療のリソース、すなわち熱傷ベッド数を調査した。今年度は各診療所や救護所での使用を想定した熱傷対応フローチャートと落雷対応フローチャートを作成した。

3. 溝端先生（坂本班：日本臨床救急医学会）

前年度作成した熱中症に関するガイドラインの要点を計8ページのリーフレットの形でまとめることができた。内容は基礎的知識、対応法、重症度判断、医療機関への搬送等である。また、外国人対応に関しても昨年度のガイドラインから、リーフレット作成をする予定である。

4. 川前先生（川前班：日本集中治療医学会）

昨年度作成した「集中治療室（ICU）のための災害時対応と準備についてのガイダンス」に関して、さらに詳しい解説を加えた。今後は、会員への周知を念頭に検討を進めてゆく方針である。

5. 須崎先生（須崎班：日本中毒学会）

N. Engl. J. Med (2018; 378: 1611-20)に掲載されたトキシンドロームを和訳し、かつ見易く理解しやすいように工夫した。また、化学テロによる多数傷病者対応の見地から、会場周辺の救命救急センターや災害拠点病院を実際に視察して、課題と解決法に関して検討することを今年度の目標としている。

6. 横田（横田班：日本救急医学会）

医療機関に対するテロ攻撃に関する対応に関して前年度は検討したが、本年度はそれをテキスト化することができた。すなわち、本年9月に「Protect Your Hospital」（へるす出版）研究班の成果の一部として出版した。

7. 木村先生（木村班：日本外傷学会）

資料のみ提出を頂いた。過年度に作成した銃創・爆傷患者治療指針の内容を計6ページにまとめたリーフレットが示された。

今後の方向性

研究代表者の横田から来年度は今年度までに作成された成果物に関する有用性の検証を予定し、目標としている。したがって、今年度後半の研究は、そのような視点からも今までの成果物の有用性を検証する方法についても検討をしていただきたいと要望があった。

（文責：横田裕行）